会議の要旨（議事録）

会議の名称	令和6年度第2回鳥栖市図書館運営協議会		
開催日時	令和7年2月20日（木） 13:30～14:45	開催場所	鳥栖市立図書館2階 視聴覚室
出席者数	委員7人（1人欠席） 事務局5人	傍聴人数	2人
議題	(1) 令和6年度事業報告について (2) 令和7年度事業計画について (3) その他（図書館システム更新について）		
配布資料	令和6年度事業報告 令和7年度事業計画 令和7年度新規事業ブックスタート事業説明 令和7年度新移動図書館車購入事業説明 新図書館システム説明		
所管課	（課名）生涯学習課 図書係 （電話番号）85-3630		

- 事務局（佐々木教育長、牛嶋課長兼館長）
- ・開会

2 議 事

以下、委員長により議事進行

議題（1）令和6年度事業報告について

- 事務局
資料「令和6年度事業報告」に基づき説明。
- 委員
学校と連携されるとのことだが、学校の先生に向けて何か研修をしたりする予定はあるのか？
- 事務局
特別整理休館中に3日間研修期間を設けている。
- 委員
図書館おすすめ講座は専門の先生がどの程度お話されているのか？
- 事務局
第1回の勝尾城については、県から城郭のパネルを借りて行った。第3回の野菜づくりは農文協に講師を依頼した、あとの3回は職員が講師を務めた。

議題（2）令和7年度事業計画について

- 事務局
資料「令和7年度事業計画」に基づき説明。
- 委員
2点質問がある。①ブックスタートの未受取りの方への対応はどう考えているのか？乳児健診と一緒にやるとほぼ100%手渡せるが、久留米市など別途やっている自治体では配布率が半分程度のようなが。②新規移動図書館車のサービスポイントは？
- 事務局
まず1つ目の質問について、乳児健診での手渡しは、担当課と協議したが難しいとのことだった。
久留米市は、未渡しの方への再通知をしていなかったため50%程度の配布率で、指摘を受け今年度から再通知をスタートさせ、配布率が上がっているとのこと。鳥栖市でも未渡しの方へは、再通知を行いたいと思っている。
- 委員
ブックスタートについて追加の質問で、障害のある方への対応はどうか。他市では保健師と一緒に訪問しているところもあると聞いている。
- 事務局
図書館では障害の有無等について情報を持っておらず、対象の月

齢の方に通知を送り、任意で来ていただく形なので、特別な対応が必要な場合は、保健センターと連携して対応したい。

2つ目の質問について、現行の移動図書館車ではバリアフリーの場所にしか行けないが、新規の車では行ける場所の選択肢が広がる。現在のところ小中学校との連携等、子供を中心とした運用を想定しているが、高齢者についても現行の移動図書館車で対応したい。

●事務局

図書館おすすめ講座について、委員のほうで「このようなものはどうか？」といったおすすめがあれば、他館の例も交えてアドバイスいただきたい。

○委員長

私がいた図書館では、講座の内容はタイムリーなものを選んでいった。例えば来年の大河のタイトルやテーマの情報が入り次第、1年前から展示の本や、講師の予定を押さえたりして準備していた。

他には、AI など幅広い世代に関心が高いテーマを選んで、仕組みをわかりやすく説明したり、活用法を紹介したりもした。料理や手芸など、幅広い分野で、偏りが無いように考えて設定していた。

○委員

ブックスタートの補足についてだが、小郡市では、家読（うちどく）の推進とも絡めて、保護者向けに絵本作家を読んで講演会をしたりしていた。新規事業なので盛り上げるためにそういったことも開催してはどうか。

○委員長

前に住んでいたところでは4歳児健診の待ち時間にブックスタートを行っていた。時間のロスも省けて、母子保健担当課も図書館もウィンウィンの関係だった。そういった形でできれば理想的だと思う。移動図書館車は全国的には廃止の流れの中で、新規で増やすというのはとても良いことだと思う。本の入替は大変だが、新鮮な本が載っていることが大切なので、入替作業を頑張ってもらいたい。

議題（3）その他（図書館システム更新）について

●事務局

資料「新図書館システム説明」に基づき説明。

○委員

今までのカードは使えなくなるのか？

●事務局

使える。お持ちのスマートフォンにアプリをダウンロードしてもらえばそちらでも使える。

○委員

館内の検索機は今までのように使えるのか？

●事務局

使える。

○委員

団体の貸出券はどうなるのか？

●事務局

今まで通り紙の貸出券となる。

○委員

子供が図書館にタブレット端末を持参して利用するというのは現実的ではないと思う。

●事務局

中学生はスマートフォンを持っている子もいるだろうから、スマートフォンにアプリをダウンロードしてもらえば使える。小学生は、基本的に校区外へは1人で行けないので、親と一緒に来る子がほとんどだと考えられるので、その場合、親のスマートフォンのアプリで切替で複数人分の貸出券を表示できる。

○委員

学校のタブレット端末とスマートフォンは連携できるのか？

●事務局

できる。現在6000人いる小中学生のうち、2500人が図書館に登録していて、今、登録情報の突合をしている。その作業が終われば、新番号に統一される。

新システムでは、子供自身が本の検索をして、自校の本だけでなく、他校や市立図書館の蔵書も検索できるようになる。学校へのデリバリーも検討課題だと思っている。

○委員

今後の検討課題になると思うが、電子書籍の導入について意見したい。文部科学省からも電子書籍を積極的に活用するように通知が来ているが、福岡県ではすでに始まっていて、佐賀県でも同じように、県が導入している電子書籍をフリーアドレスにしてもらい、傘下の市町村すべてで自由に使えるようにするとよいと思う。

●事務局

現状では導入を検討していないが、今後課題になると思う。すべての分野では導入は難しいと思うので、逆にどの分野に注力すればよいかアドバイスを頂きたい。

○委員

先日、ある講演会で聞いた話だが、今後も紙の本も電子書籍も同様に重要だと言っていた。確かに児童書の電子コンテンツは少ない。また、予算も紙の本の購入費とは別に必要となるので、その点もハードルが高い。

長野県は県立が中心になって、県内のすべての市町村が参加して県全体で一つの電子図書館を作っている。福岡県でも、久留米市や大野城市など中核となる市を中心に広域圏で導入している。予算的に見てもそういうやり方が現実的だと思う。

○委員長

今は、電子化された書籍のラインナップも相当増えたが、人気の本はなかなか電子化していない。また、電子書籍は、権利を買う、という形なので、厳密にいうとその図書館の蔵書にはならず、利用のカウントをどう取るかが難しい。電子書籍を導入している図書館の悩みはみな同じで、導入をしたものの「利用されない」というこ

と。雑誌などはまだいいほうだが、その他の本が伸び悩んでいる。ただし、時代は確実にデジタル化しているので、どうやって普及させていくかを考えないといけない。

システム更新の件で、最初はトラブル、バグの発生がつきものだと思うが、問題解決の体制はどうなっているのか？システムが何時間も止まると大変なことになるので。

●事務局

今はほとんどのトラブルがリモートで解決できるようになっている。もしも人的な対応が必要な場合でも事務所は福岡なので、そんなに遠方ではない。

○委員長

職員も慣れるまで時間がかかると思うのでしっかり研修を頑張ってもらいたい。

新システムについてだが、業者は夢のように仕事が楽になる、という売り込みをしてくるが、以前、自分がいた図書館で、ICタグを導入した際、蔵書点検が短期間で済むという触れ込みだったが、現実には、棚の両端の蔵書が読み込めず、結局手作業で従来通りの期間がかかった。新しい仕事を増やし過ぎず、余裕を持った事務負担にしていたほうがよいと思う。

○委員

生徒が、他の学校や市立図書館の本でほしい本があった場合、週1回程度配達できるような形にしてはどうか。

●事務局

システムの学校連携と、新しい移動図書館車の導入のタイミングがちょうど一緒になったので考えたい。

○委員

新しい移動図書館車は、単純に子供たちは喜ぶと思う。

○委員

アプリのレコメンド機能について、機能を使うかどうか選べないのか？

●事務局

残念ながら、現在のところ、この機能はオンオフを選べない。アプリをダウンロードした時点で、その機能に了承いただいたとみなされてしまう。

3 閉会

○委員長

終わりのあいさつ

●事務局

閉会